

秋北バス(本社・大館市、太田吉信社長)は健康づくりと環境保護、観光振興の3要素を組み合わせた「バス&ウォーク」事業を展開している。自分で決めた距離(バス停間)を歩いて目的地へ行き、帰りはバスに乗ることで地球環境と自身の健康を考える企画。日本初の取り組みを営業企画室長の加賀卓也さんに聞いた。

◇ 「バス&ウォーク」に取り組む理由を聞かせてください。

「路線バスを維持するために、従来は『乗ってください』とお願ひするだけでした。しかし、利用者の大半は高齢者などの交通弱者です。新たな乗客を増やすためには、乗ってもらう理由づけが必要でした。逆転の発想で、普段はバスに乗らない人を呼び込む企画を考えました」

―概要を教えてください。

「自分の健康と、地球の健康を考える取り組みにしました。歩いてカロリーを消費するとダイエットにつながり

ます。さらにマイカー利用を控えると二酸化炭素(CO₂)排出量が減って地球環境にやさしい。それを周知しながら、週に一度でもバスに乗車してもらうようにPR作戦を進めています」

―具体的な内容は?

「目玉は『バス停一里塚大作戦』です。バス停間を歩いた場合の消費カロリー、自家用車とバスのCO₂排出量をバス停に表示しているため、目標に合わ



秋北バス営業企画室の加賀卓也室長。ポスターの左は太田社長、右は小畑市長

日本初の取り組み

「何月何日に、どこまで歩いたか、消費カロリーはどれくらいかを記入できる『オリジナル手帳』を作成、配布して意欲を高めます。バス・ステーションや案内所で入手できるように準備を進めています。『おらほのバス停MAP』も作製中です。お勧めコースや観光スポット、食事処、特産品店などを掲示し、市民も市外の人も気軽に歩く計画を立てられます。バスの車内で配布予定です」

―観光振興に、どう結びつけますか?

「例えば大館市中心部から矢立峠の間なら、長走風穴など途中数箇所立ち寄り、ウォーキング後に温泉で体を休めてからバスで市内に戻るコースが設定できます。ウォーキング人口を増やして観光の機会を捻出する街として全国に発信し、25年秋の秋田フェスティバルも誘致したい。小さいけれど光る観光素材は点在している。アクセスが悪いという不便さを売りに、健康のためにどんどん歩いてほしい」

―小学校への環境出前授業も計画しているそうですね。

「地球温暖化問題は、経済活動主体の世の中が生んだとされています。環境と経済の関係をテーマにした『エコライフゲーム』を通して、どんな行動が環境負担につながるのかを楽しく学んでもらいます。ゲームを通じてバスの有効性を知ってもらえば、各家庭へのバス利用の呼びかけにもなるからです」



「歩き」と「公共交通」併用 「不便さ」売りに観光誘致

せて楽しむことができます。バスターミナルを中心に主要500停留所(往復750カ所)にデータ表示板を設置しました。データは秋北バスのホームページでも公開しています

―どのように参加者を増やしますか?

バス&ウォークを推進

秋北バス営業企画室長

加賀卓也

さん